

今月の技術対策 (畑作編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp


 水稲・園芸編も
HPで公開中！

【麦類】

1 収穫後のほ場管理

(1) 麦稈の処理

- ① 収穫後、麦稈は速やかに持ち出すことを基本とします。
- ② 麦稈をすき込む場合にはストローチョッパー等で細断してからプラウですき込みます。
また、麦稈の腐熟促進のため、次の処理を行いましょ。

- ・ 麦稈全量すき込み（麦稈500～900kg/10a）：窒素3～5kg/10a添加
 - ・ 搬出残渣すき込み（麦稈300～450kg/10a）：窒素2～3kg/10a添加
- 出典：北海道緑肥作物等栽培利用指針（改訂版）

(2) 土壌物理性の改善

小麦収穫後は、土壌が乾燥しやすく土壌物理性の改善に好適な条件となります。夏期の土壌水分が低い時に心土破碎や暗渠の施工を行いましょ。

(3) 緑肥作物の栽培

- ① 収穫跡地に緑肥作物を導入し、地力の向上に努めましょ。緑肥の導入効果を高めるため、小麦の収穫後速やかには種し、収量を確保ましょ。
- ② イネ科作物の作付けが多い場合には「シロカラシ」や「ひまわり」を選択ましょ。
また、えん麦の場合には「えん麦野生種」を選択ましょ。
- ③ 緑肥作物は野良生え防止のため、結実前に必ずすき込みましょ。

表 小麦後作緑肥の種類（例）

緑肥作物名	窒素施肥量 (kg/10a)	は種量 (kg/10a)	商品名 (例)
シロカラシ	5～8	2	キカラシ、夏カラシ
ひまわり	4～6	1.5～2	夏りん蔵
えん麦野生種	5	10～20	ハイオーツ、プラテックス

出典：北海道緑肥作物等栽培利用指針（改訂版）

- (4) pHの改善 土壌診断を行い、適正pH5.5～6.0を目標とし、土壌改良に努めましょ。

(5) やむを得ず連作する場合

- ① 異品種が混ざらないよう「野良生え麦」を確実に出芽させてから、は種前にグリホサート系除草剤で処理した後、は種作業を行いましょ。



写真 野良生えを処理後、は種

②は種日が早すぎる傾向にあります。極端な早まき（8月末～9月5日頃まで）は過繁茂や冬枯れ、眼紋病の発生を助長しますので、「適期は種」に努めましょう。

【豆類】

1 病害虫防除

(1) マメシクイガ（大豆）

本年は生育が早いことから、生育状況をよく確認し防除が遅れないよう注意して下さい。
（品種「ユキホマレ」：開花期 7月20日（平年 7月23日）留萌本所管内作況より）



写真 成虫（体長約5mm程度）



写真 幼虫（老熟幼虫の体長約9mm）



写真 被害粒

【1回目の防除】

莢伸長始（およそ半数の株に長さが2～3cmに達した莢が認められる）の6日後に合成ピレスロイド系の薬剤を散布

【2回目の防除】

1回目の防除の10日後に有機リン系の薬剤を散布



写真 大豆の1～4.5cmの莢

(2) 菌核病・灰色かび病（大豆・小豆）

過繁茂状態で風通しが悪いと発生しやすいため、ほ場を確認しながら、適期防除を行いましょう。また、耐性菌の発生が認められるため同じ薬剤を連用しないようにしましょう。

区分	防除適期	防除間隔・回数
大豆	開花始後10～15日目	10日毎に計2～3回防除
小豆	開花始後7～10日目	10日毎に計3回防除

※ 開花始 = 開花した株が全体の5%に達した日

(3) ハダニ類

高温・乾燥状態が続くと発生が多くなることが予想されます。ほ場周縁部を中心に発生状況を確認し、発生が確認されたら速やかに防除を実施して下さい。

～農薬使用時にはラベル等で登録内容を確認願います～



写真 ハダニによる被害

2 除草

雑草は結実前に抜き取り、大豆の汚粒防止及び翌年以降の雑草の発生防止に努めましょう。特に、大豆の立毛中に秋まき小麦をは種する計画がある場合は、除草を徹底しましょう。

暑さが続いています。こまめな休憩と水分補給を！

～農薬の安全使用基準の遵守とともに、農作業事故に注意しましょう！～